

学位論文要旨

日本における外国人女性の就業と
ライフコースに関する研究

広島大学大学院 教育学研究科
文化教育開発専攻

学籍番号 D141536
申請者 佟 亜斎娜

I. 論文題目

日本における外国人女性の就業とライフコースに関する研究

II. 論文目次

序 章 本研究の背景・目的・意義・方法

第1節 本研究の目的と意義

第2節 海外就職・移民に関する先行研究

第3節 ジェンダー的な視点からみる海外移民

第4節 ライフコースの概説，要素と空間的把握

第5節 研究方法及び各統計データの比較

第一章 日本における外国人女性の人口状況と地理分布

第1節 在留外国人の人口状況と変化

第2節 東京都における外国人女性の人口状況と地理分布

第3節 大阪府における外国人女性の人口状況と地理分布

第4節 広島県における外国人女性の人口状況と地理分布

第二章 日本における外国人の求人情報

第1節 在留外国人の在留資格の概説

第2節 グローバル人材会社とデータベースの説明

第3節 業種からみた外国人の就業

第4節 職種，雇用形態，語学能力などからみた外国人の就業

第三章 日本における外国人女性の就職とライフコース

第1節 日本における留学生の在籍現状と進路状況

第2節 中国から日本への留学状況

第3節 アンケート調査からみた在日中国人高学歴女性労働者の就職状況とライフコース

第四章 広島県における外国人女性の就業とライフコース

第1節 広島県における在留外国人

第2節 アンケート調査からみた外国人女性の就業

第3節 アンケート調査からみた外国人女性のライフコース

第4節 広島県における外国人女性の就業とライフコースとの関連

終 章 研究成果と課題

第1節 研究成果のまとめ

第2節 今後の課題

Ⅲ. 論文要旨

序 章 本研究の背景・目的・意義・方法

本研究の目的は日本における外国人の就業とライフコースについて、ジェンダー的視点を取り入れ、外国人女性の就業とライフコースに焦点を絞り、彼女らの海外就業の現状とライフコースに影響を及ぼす要因について明らかにすることである。

世界経済のグローバリゼーションにより、社会的、文化的、経済的な方面において、ヒト・モノ・カネと情報はより一層の国際的流動が生じている。日本も例外ではなく、国際的な労働力の流入が進行しており、企業活動の多国籍化が進み、様々な業種において外国籍の雇用が増加している。1990年代以降、日本の雇用システムが大きく変化し、多くの日本企業は年功序列の日本的雇用慣習を廃止して欧米型の雇用システムを導入しつつあり、正規雇用を代替する形でパートタイム労働、派遣労働のような非正規雇用を拡大させ、グローバリゼーションの中で外国人の雇用を柔軟に対応するようになってきた。そして、1970年代半ばから深刻化してきた少子高齢化による労働力の不足と、人件費コストの高騰を背景に、外国人労働者は国際的労働力として、さらには日本の人口減少を補うだけでなく長期的に在留する住民としてみなされるようになった。それに対応して、彼らに対する移民政策と就業促進の各対策がとられてきた。このような雇用システムの変化や少子高齢化を背景として、本研究は、日本における外国人労働者を対象として、在留外国人の就業とライフコースを考察し、ジェンダー的視点を取り入れ、外国人女性の就業とライフコースに焦点を絞り、彼女らの海外就業にかかわる要素とライフコースに影響を及ぼす要因を明らかにする。国際的な労働力移動の実態把握と要因の解明することは、グローバル化社会におけるキャリア形成の解明にもつながり、意義ある研究となると考えている。

研究の手順として、最初に労働力の国際化およびライフコースに関する既往の研究をレビューし、本研究の位置づけを明確化した。Kofman (2000) のヨーロッパにおける高度人材移民 (skilled migration) に関する研究では、直接的な分析対象は男性であることが多く、高度人材の女性移民を見落とすと指摘した。吉田 (2006) によると、1970年代に入ると、英語圏の女性研究者たちの間から、従来の地理学研究が男性中心主義に偏ったものであるとする批判がされるとともに、空間に刻まれた男女の非対称の権力関係、すなわちジェンダー関係をあぶり出す作業が地理学の分野において行われるようになった。従来の国際的労働力移動の既存研究では、ジェンダー的な視点が抜け落ちている傾向があり、日本国内における在留外国人女性のライフコースに関するこの視点からの研究は少ない。次に、ライフコースの概念を導入し、ライフコースの構成要素について検討した。ライフコースは、人間行為力という個人水準の作用力、そして個人にとってメタ水準にある重要な他者との共時性によって具現化される「重ねあわされる人生」という力、マクロ水準の「時空間上の場所 (年齢やコーホート)」による作用からなる。これらの三水準での相互作用の結果、役割移行のタイミングとして具現化し、ある一定頻度で出現する複数の道筋を社会的なライフコース・パターンとみなし、観察していくことができる。本研究では、国際的労働力である在留外国人女性を対象として、彼女らの就業に焦点を当て、学歴や職歴などのキャリア形成の視点から、海外就職者のライフコースを解明することを目的とする。

本研究の方法は次のとおりである。

総務省統計局の『国勢調査報告』と法務省入国管理局の『在留外国人統計』を利用し、在留外国人の人口属性の特徴と地理的分布を考察した。地理的分布に関しては、国勢調査 (小地域) のデータを加工して ArcGIS のソフトウェアを用いて作成した。そして、中国人高学歴女性労働者へのアンケート調査、広島県における在留外国人女性へのアンケート調査とインタビューを通じて、外国人女性の就業とライフコースについて考察した。

第一章 日本における外国人女性の人口状況と地理分布

第一章では、日本における在留外国人の人口状況と地理的分布との関係について明らかにした。

日本における在留外国人の人口属性について、『国勢調査報告』と『在留外国人統計』の公的統計データを利用して、国籍別・性別・都道府県別・在留資格別からみる人口属性の特徴を考察した。また、大都市圏の東京都、大阪府と地方圏の広島県（広島市、福山市、東広島市）と比較しながら、在留外国人の地理的分布について ArcGIS を用いて町丁単位でマイクロな分析を試み、ジェンダー的視点から性別に外国人集住地の形成要因を考察した。

各年の『国勢調査報告』と『在留外国人統計』の公的統計データを利用して、主要国籍（中国、韓国、フィリピン、ブラジル、ベトナム、アメリカ合衆国、ペルー、タイ、インドネシア）の在留外国人を国籍別・性別・都道府県別・在留資格別からみる人口属性の特徴について分析した。日本の在留外国人は朝鮮半島出身のオールドカマーが多かったが、1980年代半ば以降、多くの国々から、特にアジア諸国から就労目的のニューカマーや留学目的の留学生などの流入が顕著になっており、在留外国人の国籍、社会階層あるいは在留目的が多様化してきたことを指摘できた。日本の「少子高齢化」の深刻化に対して、在留外国人が増加し、特に生産年齢人口に該当する在留外国人が顕著に増えていることを明らかにし、中長期的な在留外国人と在留期間が無制限である永住者などの定住者を現地のローカルな住民として受け入れる重要性についても検討した。

地理的分布に関しては、大都市圏の東京都、大阪府と地方圏の広島県（広島市、福山市、東広島市）と比較しながら、在留外国人の地理的分布をジェンダー的視点から考察した。作成した地理的分布図から、外国人男性、外国人女性の居住状況及び性比の分布状況について市町村単位で考察し、外国人の集住地区が形成された要因を明らかにした。東京都における在留外国人の特徴として、ニューカマーの流入、特に就労目的の外国人の移住が顕著であり、欧米諸国からの在留外国人がほかの道府県より多いことがあげられる。それに対して、大阪府は「特別永住者」のオールドカマーが中心とする外国人集住地であるが、近年、就労目的のニューカマーと留学生だけではなく、外国人集住地が通勤の便利な地区で拡大している傾向があると考えられる。また広島県においては、在留外国人が大都市圏よりかなり少なく、転入と転出の傾向が日本全国の傾向より激しいと指摘できた。特徴としては、在留期間制限のない定住者が多いこと、広島県の中心部と瀬戸内海側の県境付近の市町に集中していること、中小企業で就労しているブルーカラーの在留外国人が多いことの3点を挙げる事ができた。

第二章 日本における外国人の求人情報

第二章では、国際的な労働力の需要について解明するために人材会社が提供している外国人向けの求人情報に焦点を当て、外国人の募集状況を明らかにした。

外国人の求職者の大部分は、人材会社のウェブ上に掲載されている求人情報を利用しているため、就労可能に該当する在留資格に関する統計データの分析と関連させながら、求人情報をデータベース化した募集情報の特徴を考察した。労働需要のある職種と外国人を積極的に募集している業種の分析から、大都市圏と地方圏の求人情報の地域差や、外国人労働者の地理的分布と求人会社の地理的分布との関連性を明らかにした。

東京都、大阪府、広島県に位置する会社を対象として、会社の業種、職種、雇用形態や要求されている語学能力などについての分析、大都市圏と地方圏の求人情報の特徴の比較から、どのような属性を持っている外国人が日本企業でより多く募集されているか、外国人を積極的に募集している会社はどのような企業であるかを明らかにした。募集傾向としては、以下の3点を挙げる事ができる。1点目は、東京都では欧米のニューカマーの増大が著しく、管理職や事務のようなホワイトカラーの正社員の募集が多いことが挙げられる。2点目は、大阪府では、外国語講師の募集が多く、

企業向けの英語トレーニングの契約社員を含め、ネイティブレベルの語学能力が要求されている傾向があることである。3点目としては、広島県では全体数が少ないことに加え、主に工場などの製造業に働いている外国人はブルーカラーの研修生が多いため、彼らの日本での就職には日本国内の求人情報をあまり利用しないことが明らかとなった。

第三章 日本における外国人女性の就職とライフコース

第三章では、外国人女性の就職とライフコースについて、外国人女性による日本企業への就職状況を分析し、彼女らの日本での就業にかかわる要因とライフコースとの関連を考察した。

最初に日本における留学生の在籍状況と進路状況について検討した。調査対象者を卒業後日本企業に就業できた中国人高学歴女性労働者（生産年齢人口に該当する人）に絞り、アンケート調査によって、国際的労働力としての彼女らの就職とライフコースについて分析し、彼女たちのキャリア形成について考察した。アンケート調査の集計結果から、対象者の個人属性（在留資格の内訳、年齢階層、最終学歴、職業経歴、婚姻状況、語学能力など）及び職場状況（職務内容、就職先の業種および所在地、月額報酬、現職の情報入手手法、就業年数など）を分析し、中国人留学生による日本企業への就業状況として高学歴者による中国との取引のある企業への正規職への就業と、語学力が日本での就業に大きく影響することが明らかになった。

日本では積極的に外国人留学生を受入れているため、彼／彼女らは日本で就職できる潜在的労働力であると考えられる。そこで日本における留学生の在籍現状と進路状況について考察し、在日留学生数の増加理由をライフコースの観点から検討した。中国人留学生は日本国内の留学生のなかで最多であり、卒業後に日本企業に就職した中国人高学歴女性労働者（ただし生産年齢人口該当者）を対象として、アンケート調査を実施し（調査時期：2013年8月～9月；配付：35部、回収：25部；回収率：71.43%）、国際的労働力としての彼女らの就職とライフコースについて考察した。対象者の個人属性及び職場状況から、彼女らが日本企業への就業状況及び日本での就業に関わる要因を明らかにし、留学経験はキャリアアップのワンステップとしてどのように位置付くのか、日本における現職はどのような就業機会を彼女らに与えているのか、さらに彼女らはどのような職業キャリアとライフコースを形成し、今後の就業の希望について分析した。対象者は比較的高度な人的資源を有するクラスターと位置付けられ、在留資格は人文知識・国際業務・技術職などが代表的である。職業は技術者や事務系職種などのホワイトカラーにより構成されている。職務内容は規制されているが、比較的良好な労働条件が得られているという。考察した結果、在日中国人高学歴女性就業者らは就職活動での競争力を高めるために、高学歴化を図って、中国から日本に進学してきた。彼女たちは就職のために専門的知識を習得している。しかし、性別賃金格差が存在し、外国人就業者に開かれていない日本労働市場においても、彼女たちの能力は高く評価されており、就職機会を得ることが比較的容易であり、日本は入国しやすく、就労しやすい場所であった。加えて、対象者は伝統的な婚姻観念を保持しながらも、キャリア継続のために就業と婚姻の両立を求めたライフコースを選択している。

第四章 広島県における外国人女性の就業とライフコース

本章では、広島県における外国人女性の就業とライフコースについて考察し、地方圏の広島県における外国人女性の就職プロセスを支えるメカニズムについて検討した。

広島県に居住する外国人女性の人口属性の特徴及び就労可能な在留資格の内訳、外国人女性就業者の就業状況及び日本で就業した経緯に関するアンケート及びインタビュー調査（調査時期：2015年10月～11月；調査対象者は中長期間の在留外国人女性就業者）から、対象者の個人属性、調査時点で現職の状況、出身国から日本までの職業経歴を分析した。分析の結果、国際就労では学歴な

どの教育的背景、語学能力と人的資本などが重要な要因であり、外国人女性の就職プロセスとその後のキャリア形成を明らかにした。

職業の種類別に外国人女性の就業についてみると、製造業や派遣会社に正社員として従事する対象者の職務内容は、その企業の基幹的業務や通訳、人材マネジメントなどであり、雇用形態が比較的安定した状態にある。一方、サービス業に属する対象者は、職業上は飲食、小売店などに従事しており、高い言語能力を有するが、人的資源と労働条件の面で相対的に劣ると考えられる。対象者は、伝統的な婚姻観念を保持しながら、就業と婚姻の両立を求めているが、日本的職場文化や日本語への関心の度合いは国籍や個人属性によって多様であった。

終章 研究成果と課題

各章の分析結果から、日本における外国人の就業とライフコースに関して三点が明らかとなった。第一に、外国人労働者は既に長期的に在留する就業者として受け入れられており、多様な就業形態がとられている。第二に、就労や留学資格を得た在留外国人は大都市圏での就業が顕著であり、国際的な就労では学歴や語学能力、および人間関係が重要である。第三に、大都市圏と地方圏の求人情報には地域差があり、在留外国人の地理的分布と関連性がある。加えて、外国人女性就業者は伝統的な婚姻観念を保持しながらも、キャリアの継続を望んでいるため就業と婚姻の両立を求めている。

今後の課題としては、欧米圏を含めた国際的労働力移動との国際的比較研究を行うことである。今後は、ヨーロッパやアメリカ合衆国における国際的労働力移動の動向を把握し、統計分析とインタビュー調査の両面からマルチメソッド方式の研究手法をとり、アジアと欧米の国際的労働力移動について比較研究を行う必要がある。

IV. 参考文献

欧文文献：

- Hahn (2000) : Konstruktionen des Selbst, der Welt und der Geschichte. Aufsätze zur Kultursoziologie, Frankfurt a.M. : Suhrkamp.
- Hanaoka K, Ishikawa Y, Takeshita S (2015) : Have Destination Choices of Foreign Residents Contributed to Reducing Regional Population Disparity in Japan? Analysis Based on the 2010 Population Census Microdata, Population, Space and Place, DOI : 10.1002/psp.1975
- Ishikawa Yoshitaka (2011) : Impact of the economic crisis on human mobility in Japan : a preliminary note, Belgian Journal of Geography, pp.129-148
- Kamiya H (2015) : Locally Hired Japanese Workers Abroad : Viewing from Gender Perspective and Destination Choice, Geographical Sciences (Chiri-Kagaku), Vol 70-3, pp.180-191
- Kofman, E. (2000) The invisibility of skilled female migrants and gender relation in studies of skilled migration in Europe International, Journal of Population Geography 6, 45-59
- Kohli, M. (1985) "Die Institutionalisierung des Lebenslaufs. Historische Befunde und theoretische Argumente" Kolner Zeitschrift für Soziologie und Sozialpsychologie, 37 : 1-29
- OECD (2007) : Key Findings on the Labour Market Integration of Immigrants, Jobs for Immigrants (Vol. 1) : Labour Market Integration in Australia, Denmark, Germany and Sweden, OECD Publishing, Paris, DOI : <http://dx.doi.org/10.1787/9789264033603-2-en>
- Paasi, A. (2002) "Deconstructing regions : Notes on the scales of spatial life" Environment and Planning A 23 : 239-256
- Thang L. L, MacLachlan E, Goda M, Expatriates on the Margins- a study of Japanese women working in Singapore, Geoforum, 33, 2002, pp.539-551

- Thang L.L, Goda M and MacLachlan E (2004) : Challenging the life course : Japanese single working women in Singapore. Thang L.L and Yu W-H (eds.) : Old Challenges, New Strategies : Women, Work and Family in Contemporary Asia (Social Sciences in Asia, Vol) , Brill Academic Publishers, 301-322
- Thang L.L., MacLachlan E and Goda M (2006) : Living in “My space” : Japanese working women in Singapore, Geographical Science, 61, 156-171
- Tong Yaqina(2009): The Life Courses about Chinese Women with Higher Educations as Foreign Workers in Japan, Bulletin of the Graduate School of Education, Hiroshima University, Vol.64, 2015, pp.35-42
- Yui Y(2009): Japanese Women’s Work Overseas and the Activities of Recruitment Agencies in Singapore, Journal of Geographical Science (57), pp.55-70

邦文文献 :

- 池田理知子 (2011) : 『よくわかる異文化コミュニケーション』 ミネルヴァ書房
- 石川義孝 (2005) : 外国人関係の2統計の比較, 人口学研究 37 : 83-94
- 石川義孝 (2011) : 外国人流入は地方圏を救うか? 統計 62 (1) : 2-6
- 磯田則彦(2005) : 「日本における外国人人口の分布とその変化」『福岡大学人文論叢』第37巻第3号, pp. 845-860, 伊豫谷登士翁編, 久場嬉子・梅澤直樹・松川誠一・嶋田ミカ・小ヶ谷千穂・足立真理子・堀田碧・サスキア・サッセン著 (2000) : 第5巻『経済のグローバリゼーションとジェンダー』, 叢書『現代の経済・社会とジェンダー』, 明石書店
- 岩永雅也 (1990) : 「アスピレーションとその実現—母が娘に伝えるもの—」岡本英雄・直井道子編『現代日本の階層構造 4 女性と社会階層』東京大学出版会
- 上林千恵子 (2012) : 「外国人労働者の権利と労働問題—労働者受け入れとしての技能実習制度」, 宮島喬・吉村真子編著『移民・マイノリティと変容する世界』17-46. 法政大学出版局
- 小ヶ谷千穂 (2000) : 第6章「移住労働者の女性化」のもう一つの現実—フィリピン人農村部送り出し世帯の事例から—, 第5巻『経済のグローバリゼーションとジェンダー』, 叢書『現代の経済・社会とジェンダー』, 明石書店, pp. 161-186
- 賀一菁(2011) : 『日本の中小企業における外国人労働者問題に関する研究—中国の研修生・技能実習生の問題を中心に—』龍谷ビジネス レビューNo. 13 p. 21
- 亀田温子 (1977) : 「女子生徒の職業意識形成についての—考察」『人間発達研究 No. 2』お茶の水女子大学心理・教育研究会, pp. 9-15
- 川口章 (2002) 「ダグラス=有澤法則は有効なのか」『日本労働研究雑誌』No. 501, pp. 18-21
- 金 侖貞 (2011) : 地域社会における多文化共生の生成と展開, そして, 課題, 自治総研通巻 392号, pp. 59-82
- 熊沢誠(2000) 『女性労働と企業社会』岩波書店
- グレン・H・エルダー, ジャネット・Z・ジール編著, 正岡寛司・藤見純子訳 (2003) 『ライフコース研究の方法 質的ならびに量的アプローチ』, 明石書店
- 小池和男(1991) 『仕事の経済学』(第3版)「はしがき」東洋経済新報社
- 呉貴明(2004) 『中国女性職業生涯発展研究』中国社会科学出版社
- サスキア・サッセン著, 伊豫谷登士翁訳 (2000) : 第9章「グローバル経済のフェミニスト分析にむけて」, 第5巻『経済のグローバリゼーションとジェンダー』, 叢書『現代の経済・社会とジェンダー』, 明石書店, pp. 245-275
- 式王美子(2011) : 「東京と大阪における新来外国人の地理的な分布」『日本都市学会年報』VOL. 44, 日本都市学会, pp. 138-144

- 嶋崎尚子 (2008) : [社会学のポテンシャル 2] , ライフコースの社会学, 学文社
- 柴山恵美子・藤井治枝・守屋貴司(2005) : 『世界の女性労働』 ミネルヴァ書房
- 清水昌人・中川雅貴・小池司朗 (2016) : 市区町村における外国人の転入超過と人口流出, E-journal GEO, 11 巻 2 号, pp. 375-389, doi : <http://doi.org/10.4157/ejgeo.11.375>
- 瀬地山角(1996) : 『東南アジアの家父長制』, 勁草書房, p. 316
- 蘇林(2004) : 『現代中国叢書 5—現代中国のジェンダー』 明石書店
- 神谷浩夫・由井義通・中澤高志・武田祐子 (2008) : オーストラリアで学ぶ日本人留学生のライフコース, 地理学報告, 第 106 号, pp. 1~14
- 神谷浩夫, 由井義道, 瀧淳弘, 久保倫子 (2010) : 「北米ベイエリアで働く日本人女性のライフコース」『人文地理学会大会研究発表要旨』セッション ID 508, pp. 60
- 滝田祥子 (1988) : 一九八〇年代における日本留学の新展開—なぜ留学生数が増加したか—, 日本国際政治学会編『国際政治』第 87 号「国際社会における人間の移動」, pp. 106-123
- 田中洋美・M. ゴツィック・K. 岩田ワイケナント(2013) : 『ライフコース選択のゆくえ—日本とドイツの仕事・家族・住まい』新曜社
- 千葉立也 (2011) : 「6 オールドカマー：韓国・朝鮮」『地図でみる日本の外国人』ナカニシヤ出版, pp. 12-13
- 趙敬(2010) : 『当代日本女性劳动就业研究』中国社会科学出版社
- 津崎克彦 (2014) : 在留外国人統計に見る外国人労働力の性質と変容, 四天王寺大学紀要, 第 58 号, pp. 125-154
- 中井美樹 (2000) : 「若者の性役割観の構造とライフコース観および結婚観」『立命館産業社会論集』第 36 巻第 3 号 pp. 117-127
- 中澤高志(2008) : 『職業キャリアの空間的軌跡：研究開発技術者と情報技術者のライフコース』大学教育出版
- 中澤高志(2012) : 『日本人女性の現地採用労働市場の拡大とその背景—2000 年代半ばのシンガポールの事例』地理科学 vol. 67 no. 4 pp. 153-172
- 中澤高志・由井義通・神谷浩夫・木下禮子・武田祐子 (2008) : 海外就職の経験と日本人としてのアイデンティティー—シンガポールで働く現地採用日本人女性を対象に—, 地理学評論 68 (3) , pp. 95-120
- 中澤高志・由井義通・神谷浩夫 (2012) : 日本人女性の現地採用労働市場の拡大とその背景—2000 年代半ばのシンガポールの事例—, 地理科学, 67, 153-172
- 花岡和聖(2011) : 「I 分布と変化 3 増減」石川義孝編『地図でみる日本の外国人』ナカニシヤ出版, pp. 6-7
- 樋口直人 (2010) : 経済危機と在日ブラジル人—何が大量失業・帰国をもたらしたのか, 大原社会問題研究所雑誌, No. 622, pp. 50-66
- 平野貴子 (1981) : 「女性の職業形成と環境」『武蔵野女子大学紀要 No. 16』
- 福本拓 (2004) : 1920 年代から 1950 年代初頭の大阪市における在日朝鮮人集住地の変遷, 人文地理 56(2), pp154-169
- 福本拓(2010) : 東京および大阪における在日外国人の空間的セグリゲーションの変化—「オールドカマー」と「ニューカマー」間の差異に着目して—, 地理学評論 83-3, pp. 288-313
- 藤野敦子(2012) : 『フランスの非正規雇用の実態及び就労意識：日本との比較の観点から』京都産業大学論集社会科学系列
- ブライアン・キーリー(2010) : 「第 1 章 移民論争」, OECD 編, 濱田久美子訳『よくわかる国際移民—グローバル化の人的側面』明石書店, pp. 8-17

- 朴昌明(2003) : 『韓国における周辺労働者層の拡大』 商学論究 51(2) pp. 109-126
- 村松幹子(1994) : 『女子学生のライフコース観の形成-親の影響を中心に』 関東社会学会機関誌
「年報社会学論集」第7号
- 望月嵩(1991) : 「ライフコースの日米比較 2 成人期への移行」 盛岡清美・青井和夫編『現代日本人のライフコース』日本学術振興会
- もりきかずみ(2005) : 「第6章 定住者の実態とその問題点 (前半)」 武田丈編著『フィリピン女性エンターテイナーのライフストーリー』関西学院大学出版会, pp. 120-137
- 盛山和夫(2000) : 『日本の階層システム4 ジェンダー・市場・家族』東京大学出版社, p. 68
- 由井義通・古賀慎二 (2013) : 広島市における女性起業支援, 日本都市学会年報, Vol46, pp. 197-204
- 由井義通 (2015) : 海外求人情報からみたグローバル人材の特徴, 地理科学第 70 巻第 3 号, pp. 168-179
- 吉田容子(2006) : 地理学におけるジェンダー研究—空間に潜むジェンダー関係への着目—, E-journal GEO, vol.1 (0) 22-29

参考資料 :

世界銀行

<http://data.worldbank.org/>

『出入国管理及び難民認定法』

<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S26/S26SE319.html>

厚生労働省「政策について 外国人雇用対策」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/gaikokujin/gaikokujin16/category_j.html

総務省統計局『国勢調査報告』

<https://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL02100104.do?tocd=00200521>

総務省『留学生の受入れ推進施策に関する政策評価』(2005)

http://www.soumu.go.jp/menu_news/snews/daijinkanbou/050111_1.pdf

法務省入国管理局『在留外国人統計』

http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_index2.html

法務省入国管理局 統計に関するプレスリリース

http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri01_00013.html

政府統計の総合窓口

<https://www.estat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do>

広島県統計課『人口移動統計調査』

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/toukei/jinkouidoutyosa.html#h27>

日本学生支援機構 (JASSO) 「平成 24 年外国人留学生在籍状況調査結果」 <http://www.jasso.go.jp/index.html>

第二次東広島市国際化推進プラン『外国人市民アンケート調査結果—東広島市』2013年3月

<http://www.city.higashihiroshima.lg.jp/material/files/group/8/15251668.pdf#search=%27%E5%A4%96%E5%9B%BD%E4%BA%BA%E5%B8%82%E6%B0%91%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%83%88%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E7%B5%90%E6%9E%9C%EF%BC%8D%E7%AC%AC%E4%BA%8C%E6%AC%A1%E6%9D%B1%E5%BA%83%E5%B3%B6%E5%B8%82%E5%9B%BD%27>

UNESCO Institute for Statistic

<http://www.uis.unesco.org/Pages/default.aspx>
中華人民共和國國家統